

藤田精治 少年野球専用球場の整備についてお伺いたします。

スポーツは、青少年の心身の健全な発達を促すものであり、特に自己責任やフェアプレーの精神を培うものであります。21世紀を迎えて社会が急激に変化する中で、自然にはぐくまれた豊かな心と鍛えられた健やかな体をあわせ持つ個性豊かな児童、生徒の育成は極めて大切なことであります。

水戸市では、青少年スポーツの振興を目的に、財団法人日本体育協会のもと、スポーツ少年団が設立されており、現在21種目のスポーツ少年団が市の施設はもとより学校、民間の施設を利用しながら活動を行っております。水戸市の体育施設の利用に当たっては、毎年、年度末に翌年度の施設利用のための調整会議を行っており、この調整会議は競技団体、地域スポーツ団体、職場等で大会に利用する団体を対象に行っていると聞いておりますが、少年野球の子供たちにとっては、土曜日、日曜日の予定している会場の確保が非常に難しい状況にあります。

水戸は「一球入魂、快打洗心」の名言を残した飛田穂洲先生を初め、数々の野球指導者を輩出した土地柄であり、市民の野球に対する思いは非常に熱いものがあります。そのような中、水戸市近隣の少年野球チームも近年ますます盛んになり、各地区の広場、各学校のグラウンドで、休日には朝から晩までボールとバットを持って練習をし、そして試合をしております。中学野球、高校野球でこの水戸地区が古豪復活をなし、今春の選抜高等学校野球大会に見事出場を果たした水戸短大附属高等学校野球部にも、この子供たちの力によるものが大であります。

今、阪神でエースと言われている井川投手もそのような中で育った水戸を代表するすばらしい選手であり、日本一の投手になってもらいたい子供たちのあこがれの選手でもあります。

全国の野球少年たちも、毎年夏には、高校球児のあこがれの甲子園のごとく、各地区予選を勝ち抜き、学童野球全国大会の会場となる水戸市を目指してやってきます。そして、市民球場、軟式4面球場、県営球場ほか各球場にて、大人顔負けの熱き戦いを繰り広げ、友情を温め、そして水戸の地のすばらしい思い出を持って全国各地に帰っていくのです。

現代社会におけるスポーツの果たす意義や役割を考えたとき、スポーツ活動を継続的に実践できるような、また競技力の向上につながるようなスポーツ環境を整備することが必要であると思っております。平成14年度から学校週5日制が実施されます。子供たちの豊かなスポーツライフの実現のため、子供のスポーツ活動の受け皿として、田野市民運動場5、6号球場を、子供たちがいつでも気軽に野球の練習、そして満足のいく試合ができる拠点として整備し、少年野球専用球場ができないか、お伺いたします。

最後に、水戸短大附属高校野球部の甲子園出場を祝し、水戸っぼ魂を十二分に発揮し、深紅の優勝旗をぜひ水戸に持ち帰らんことを祈願しまして、一般質問を終わります。誠意ある答弁をよろしくお願いします。

教育長 吉田仁 少年野球専用球場の整備についてお答えいたします。

毎年、水戸市内の施設を利用して、全日本学童軟式野球大会やスポーツ少年団野球大会など数多くの大会が行われておりますが、野球に限らずスポーツを少年期に体験することは、子供たちの豊かな心と健康な体をはぐくむ上で大切なことであり、特に4月からの学校週5日制の完全実施を考えると、週末の自由時間をスポーツ活動で有効に過ごすことは意義のあることであります。そのために、子供たちのスポーツ活動の受け皿として、体育施設はもとより、運営面においても一層の改善に努め、スポーツ環境の整備充実を図る

ことが必要であると認識しております。

このようなことから、議員御指摘の田野市民運動場の一部について、今後、少年野球やソフトボールの専用球場として利用できるようにするため、施設状況及び整備方法について改修に向け調査を実施してまいります。